広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	チーム学校の実現における学校事務職員の役割 ： 校長・学校事務職員調査の自由記述分析より
Author(s)	諏訪，英広；川口，有美子；佐久間，邦友
Citation	学習開発学研究 , 14 : 85 - 94
Issue Date	2022-03-30
DOI	
Self DOI	10.15027/52285
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00052285
Right	Copyright (c) 2022 広島大学大学院人間社会科学研究科学習開発学領域
Relation	

チーム学校の実現における学校事務職員の役割

―校長・学校事務職員調査の自由記述分析より―

諏訪　英広[1]・川口有美子[2]・佐久間邦友[3]

（2022 年 1 月 10 日 受理）

The Role of School Business Manager in the Realization of Team Schools
—From Free Description Analysis of the principal / School Business Manager Survey—

Hidehiro SUWA, Yumiko KAWAGUCHI and Kunitomo SAKUMA

Abstract: The purpose of this paper is to use the free description data obtained from the questionnaire survey for principals and school business manager, that is, qualitative data, and to analyze the business manager in the realization of "team school" through the analysis by the method of text mining. As a result of the analysis, the following findings were obtained. As a whole, the principal is an education / teacher who actively participates in and participates in school management and for administrative staff, and demonstrates his / her expertise centered on budget / financial aspects as an administrative staff. It became clear that they have "overall" expectations (feelings) such as support, information gathering and dissemination. On the other hand, business manager accepts the "overall" role consciousness of the principal, and in particular, supports education and teachers by utilizing their budget and financial expertise as administrative staff, and reduces the work burden associated with it. It became clear that it has a concrete role image of business improvement, information gathering and dissemination inside and outside the school, and connection with people and institutions (resource acquisition and expansion). And both the principal and the clerical staff are "information management and dissemination" as the role of the clerical staff in the realization of "team school" (role image as "information manager") and "colleague faculty and staff" as the interpersonal relationship of the clerical staff. Expectations and role recognition for the above were suggested.

Key words: team schools, principal, school business manager, role
キーワード：チーム学校, 校長, 学校事務職員, 役割

Ⅰ　問題の背景と研究の目的

2015 年 12 月，中央教育審議会答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」によって，子どもに「生きる力」を定着させ得る「チーム学校」のあり方が示された。このうち，校内チームに関して特筆されることは，学校事務職員（以下，「事務職員」）が学校運営事務に関する専門性を有しているほぼ唯一の職員と位置付けられ，「より広い視点に

[1] 川崎医療福祉大学医療技術学部
[2] 公立鳥取環境大学環境学部
[3] 日本大学文理学部

立って，副校長・教頭とともに校長を学校経営面から補佐」「教育活動の推進のために学校の予算や施設管理等に精通した事務職員が大きな力を発揮」といった新たな役割期待が付与されたことである。答申を受け，2017 年 4 月の学校教育法一部改正により，事務職員は，「事務に従事する」から「事務をつかさどる」と改められた（学校教育法第 37 条 14 項）。このように事務職員は，これまでよりも多様でかつ高度な業務に従事しながら，「チーム学校」の一員としてその専門性を発揮していくことが強く要請されている。このような政策動向に連動しつつ，「チーム学校」の実現あるいは学校経営における事務職員の役割に関する研究も進展してきている。例えば，理論研究において，加藤（2016）は，「チーム学校」をめぐる政策動向における学校事務及び事務職員の問題などに関する議論を論じる中で，事務職員の果たす役割や機能の拡大と多様化を指摘している。また，福島（2016）は，「チーム学校」施策下の学校事務及び事務職員の課題を「組織力」の視点より検討し，事務職員「個人」の力量形成や「組織力」を高める場づくりの重要性を指摘している。次いで，実証ないし調査研究において，国立教育政策研究所（2015）は，小中学校の事務職員を対象とする質問紙調査データに基づき，自身の資質・能力習得度，資質・能力必要度，職務満足度，職務実態等を明らかにしている。また，国立教育政策研究所（2017）は，小・中学校の校長を対象とする質問紙調査データに基づき，事務職員による校長の補佐体制という視点から，事務職員の行動に対する校長の認識を明らかにしている。以上の研究状況を踏まえた時，事務職員の専門性を活かした「チーム学校」のあり方について事務職員と校長の両者を対象に実施した調査研究は，管見の限り見当たらない。そこで，筆者らは，上記の問題意識に基づき，校長と事務職員を対象とする質問紙調査を実施し，量的データの分析を通して，次の知見を得た（川口他 2019）。第一は，「校長との肯定的関係」や「成長的・挑戦的雰囲気」といった組織風土・組織文化がある学校ほど，また，事務職員の役割として「情報の管理と発信」を担うことや，事務職員の対人関係において「同僚の教職員」と関わることを期待している学校ほど，「チーム学校」の実現が進展していることである。第二は，「チーム学校」の実現における事務職員のあり方について得られた示唆として，学校種による事務職員の職務態様の違いに迫ることも求められる。また，事務職員の情報管理・発信の充実・深化が要請されることであり，「情報マネージャー」とでもいうべき，事務職員のさらなる職務が期待されることである。一方で，定量的データの分析では，校長と事務職員が抱く「チーム学校」の実現における学校事務職員の役割」の具体像が必ずしも明確に捉え切れていない面がある。また，先行研究を確認したところ，質的データの分析によって，この点を明らかにした研究は見られない。そこで，本稿では，先の調査で得られた自由記述データ，すなわち質的データを用いて，テキストマイニングという手法による分析を通して，「チーム学校」の実現における事務職員の役割を統計的・構造的に明らかにすることを目的とする。

Ⅱ　研究の方法

１．調査対象と方法

調査対象自治体は，調査の実現可能性の観点から，筆者らと研究・実践面でのかかわりが深い 3 県 （東北地方の A 県，中国地方の B 県・C 県）の公立小・中学校を対象校とし，全校のうち無作為抽出した 50%の学校の校長（計 526 名）と事務職員（計 526 名）を対象者とした。調査方法は，調査対象校の校長宛てに，調査依頼文とともに，校長用調査票と事務職員用調査票を送付した。校長から事務職員（複数配置の場合 1 名）に調査票を渡してもらった。調査は，倫理的配慮の観点から無記名回答及び個別返送の方式を採用した。また，依頼文には，調査結果は統計的に処理され，回答結果（データ）は研究以外の目的には用いないこと，学校名や個人名が特定されるなど迷惑をかけることは一切ないことといった倫理的配慮を記載し，調査票への回答により調査協力への同意を得たものと理解する旨を明記した。

２．調査時期と調査票の構成，配布・回収結果

調査時期は 2018 年 10 月上旬～中旬であった。3 県それぞれ及び全体の配布数・有効回収数・有効回収率は，表 1 の通りである。

表 1　調査票の配布数，有効回収数，有効回収率

	全体		A県		B県		C県	
	校長	事務職員	校長	事務職員	校長	事務職員	校長	事務職員
配布数	526	526	170	170	88	88	268	268
有効回収数	267	300	87	103	49	56	131	140
有効回収率	50.7%	57.0%	51.1%	60.5%	55.6%	63.6%	48.8%	52.2%

３．分析の方法

先述したように，筆者らの研究関心は，質問紙調査データによって「チーム学校」の実現における事務職員の役割を明らかにすることであるが，その要素は，回答者（当事者）の置かれた状況や主観によって異なるため，定量的データでは解明し得ない面が大きい。その課題を克服するために，当事者の自由回答（定性的データ）を用いた質的分析が必要となる。しかも，分析者の主観を可能な限り排除した科学的分析が求められる。そこで，本稿では，分析の方法として，テキストマイニングという手法を採用した。テキストマイニングとは，自由記述データなどの定性的（質的）データから意味のある情報や特徴を見出そうとする技術・手法の総称である。具体的には，質問紙調査の自由記述やインタビュー等で得た語・文字の情報において，出現する語・文字の頻度，同様の意味や特徴を示す語・文字のまとまり，これらまとまり間の関係性，語・文字やまとまりが相互に出現する傾向性などを統計的・構造的に分析する技術・手法である。テキストマイニングのソフト・プログラムのうち，社会統計学の研究者によって開発され，多様な分析手法と使用の簡便さにより，教育学・福祉学・看護学等多くの研究分野での採用が急増しているテキストマイニングのフリーソフト「KH コーダー3.Beta.04a」を使用した。なお，分析にあたっては，主として，KH-コーダーの開発者である樋口耕一氏の著書（樋口 2020）と分析ガイド書（末吉 2019）を参照した。

本稿では，校長においては，有効回収データ 267 通のうち，設問「『チーム学校』を実現するために，学校事務職員の方々にどのような期待をされますか」に対して回答（記述）のあった 197 名（有効回収数のうち 73.8%）のデータを使用する。また，事務職員については，有効回収データ 300 通のうち，設問「『チーム学校』を実現するために，あなたはどのような役割を担うことができると思われますか」に対して回答（記述）のあった 201 名（有効回収数のうち 67.0%）のデータを使用する。本稿で分析の対象とする回答者の主たる基本属性について，校長は，学校種：小学校：136 名（70.8%）・中学校：56 名（29.2%），学校事務共同実施：あり：143 名（73.3%）・なし：52 名（26.7%），校長通算経験年数：3.64 年（平均値）・2.02（標準偏差），現任校在職年数：1.98 年（平均値）・1.07（標準偏差）であった。事務職員は，学校種：小学校：136 名（69.7%）・中学校：59 名（30.3%），学校事務共同実施：あり：144 名（72.4%）・なし：55 名（27.6%），事務職員通算経験年数：23.55 年（平均値）・13.57（標準偏差），現任校在職年数：2.79 年（平均値）・1.68（標準偏差）であった。

以下では，定性的データを用いた定量的分析によって，校長，事務職員それぞれの「『チーム学校』を実現するための事務職員の役割」像を統計的・構造的に分析・考察する。

Ⅲ　結果

１．抽出語

（１）校長

まず，いかなる語がどのような頻度で出現したのか，抽出語を概観する。前処理としては，固有名詞，組織名，人名，地名，未知語，感動詞，タグを除外品詞とした。また，「思う」「考える」「感じる」「する」など 18 語は，分析に使用しない語として除外した。ここには，分析に直接使用しない（できない）語が上位の抽出語となることを防ぎ，より適正な分析結果を得るための阻害情報を除外するという意図がある。

校長データにおける類似語を含む出現回数 10 回以上の語の一覧を示したものが表 2 である。出現率 20 回以上の語は 9 語であり，最も出現回数が多い語は期待（49 回）であった。続いて出現回数の多かった語は，積極（37 回），教員（36 回），予算（33 回），参画（29 回）であった。

（２）事務職員

続いて，事務職員データにおける類似語を含む出現回数 10 回以上の語の一覧を示したものが表 3 である。出現率 20 回以上の語は 19 語であり，最も出現回数が多い語は教員（48 回）であった。続いて出現回数の多かった語は，情報（45 回），仕事（41 回），役割（38 回），財務（37 回）であった。事務職員と校長の記述者数はほぼ同数ながら，事務職員の方が校長よりも出現語及び回数が多かった。

２．特徴語

次に，校長と事務職員という 2 つの外部変数それぞれに出現する語の特徴を探るために，2 群間の比較において特徴語を抽出した結果が表 4 である。表の数値は Jaccard 係数であり，係数が高いほど，その外部変数において特徴的な語であると解釈される。校長は，「期待」の係数（0.186）が最も高く，「積極（0.167）」「学校運営（0.153）」「参画（0.138）」が続いた。また，事務職員は，「教員」の係数（0.168）が最も高く，「財務（0.165）」「情報（0.154）」「役割（0.154）」が続いた。

表 2　抽出語：校長

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
期待	49	持つ	14
積極	37	生かす	14
教員	36	環境	14
予算	33	多い	13
参画	29	コミュニケーション	12
仕事	29	視点	12
教育	24	対応	12
立場	24	大切	12
業務	21	必要	12
意見	18	関係	11
発揮	18	職務	11
連携	18	専門	11
子ども	17	全体	11
情報	17	担う	11
地域	17	会計	10
関わる	16	経営	10
役割	16	助言	10
チーム	15	内容	10
意識	15	理解	10
活動	14		

表 3　抽出語：事務職員

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
教員	48	先生	19	現在	13
情報	45	負担	19	課題	12
仕事	41	もっと	18	人	12
役割	38	実現	18	組織	12
財務	37	全体	18	備品	12
予算	34	マネジメント	17	部門	12
チーム	33	サポート	16	立場	12
会計	29	提供	16	連絡	12
連携	29	関係	15	校内	11
地域	28	共同	15	実施	11
業務	26	軽減	15	面	11
担う	26	子ども	15	効率	10
必要	24	処理	15	持つ	10
環境	23	つなぐ	14	職務	10
教育	23	活動	14	推進	10
支援	23	行政	14	生かす	10
関わる	20	参画	14	生徒	10
整備	20	自分	14	多い	10
提案	20	調整	14	担当	10
積極	19	様々	14		

表 4　特徴語

校長		事務職員	
期待	0.186	教員	0.168
積極	0.167	財務	0.165
学校運営	0.153	情報	0.154
参画	0.138	役割	0.154
学校経営	0.135	予算	0.137
教職員	0.127	仕事	0.120
立場	0.106	連携	0.119
専門性	0.101	チーム	0.116
学校事務	0.099	担う	0.114
業務	0.092	会計	0.100

３．対応分析

次に，校長と事務職員という 2 つの外部変数と抽出語との関係を見るために，対応分析を行った。語の取捨選択に関しては，最小出現回数 15，最小出現文数 1 に設定した。分析の結果を示したものが図 1 である。校長，事務職員それぞれの近くにある語ほど，各群に特徴的な語であり，外部変数と語との位置関係を視覚化したものと言える。その観点から，校長を見ると，「教職員」「積極」「コミュニケーション」「立場」「意見」「専門性」「学校運営」「参画」がより近くに位置づいていた。KH -コーダーでは，その語が原文で実際にどのように使われているかを参照することが可能である。そこで，使用されている原文を概観すると，「事務職員の仕事を正確・確実に行い，教職員とのコミュニケーションを円滑に，積極的に図りながら，学校の取組に関しても，理解を深め，事務職員の立場から，学校運営に関して，広く意見を出してもらいたい。」「積極的に学校運営や諸課題解決等のため，管理職はもとより教職員の相談にのってほしい。そのことで学校運営に参画し，『チーム学校』を達成することにつながると考える。」など，総じて，学校事務職員としての専門性をもって，教職員とコミュニケーションを図り，積極的に学校運営に参画してほしいといった内容の文が多かった。一方，事務職員を見ると，「教頭」「チーム」「役割」「サポート」「提案」「情報」「連絡」「共同」「整備」「様々」「担う」などがより近くに位置づいていた。使用されている原文を概観すると，「共同実施等の情報交換を学校に持ち帰り，情報を共有することで何かお役に立てればと思っています。」「教頭の事務業務の負担を軽減できるよう，教頭と事務職員とで，業務の連携や分担を進めること。教員については，より子どもと向き合えるよう，学級費やその他の会計の執行について，サポートしていければいいかなと考えます。」など，総じて，校長の考える役割と類似した文が多い中で，特に，共同実施で得た知識・情報を参照しつつ，教頭や教員の業務負担の軽減につながるサポート役割を担いたいという内容の文が多かった。

４．多層的クラスター分析

（１）校長

次に，統計的推定によって，類似性の高い語同士をグループ化する多層的クラスター分析（Ward 法）を行った。校長の結果が図 2 である。7 つのクラスターが析出され，原文を参照した上で，「1.地域との関わり・管理職及び教員との連携」（「役割」「連携」「地域」等で構成），「2.情報収集及び提供・予算面・全体の視点」（「予算」「情報」「視点」等で構成），「3.教員とのコミュニケーション」（「コミュニケーション」等で構成），「4.チーム学校の一員・強みの発揮」（「チーム」「発揮」等で構成），「5.教育環境・活動」（「教育」「活動」等で構成），「6.専門性・経営参画」（「意識」「専門」「経営」等で構成），「7.子どもや教員との関り・積極的な意見や参画」（「教員」「子ども」「積極」「参画」「意見」等で構成）と命名した。

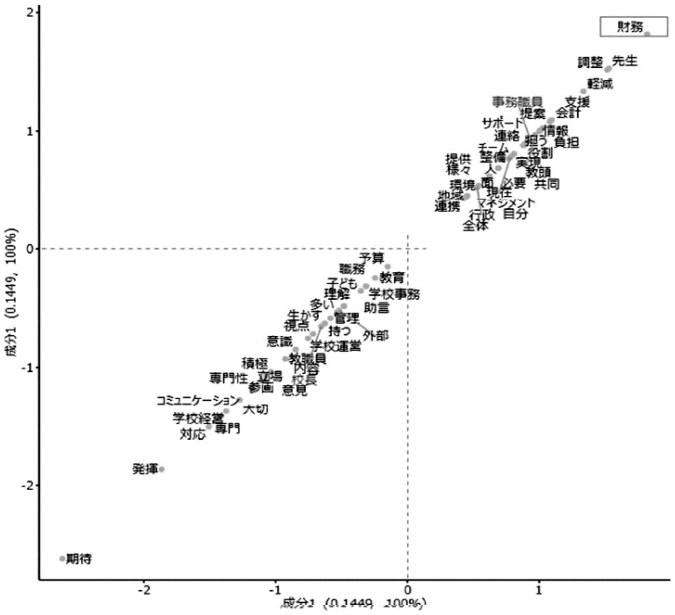

図１　対応分析

（２）事務職員

次に，事務職員の結果が図 3 である。7 つのクラスターが析出され，原文を参照した上で，「1. 共同実施・行政職員」（「行政」「共同」等で構成），「2.地域との関わり・予算提案・経営参画」（「地域」「予算」「連携」「参画」等で構成），「3.校内外の連絡・調整」（「調整」「連絡」から構成），「4.教育環境及び支援・情報収集及び発信・財務」（「情報」「財務」「環境」「支援」等で構成），「5.教員の負担軽減・業務改善」（「教員」「業務」「負担」「軽減」等で構成），「6.専門性としての事務・チーム学校の実現」（「チーム」「仕事」「実現」等で構成），「7.子どもとの関わり・人や機関とのつながり」（「子ども」「つなぐ」「人」等で構成）と命名した。

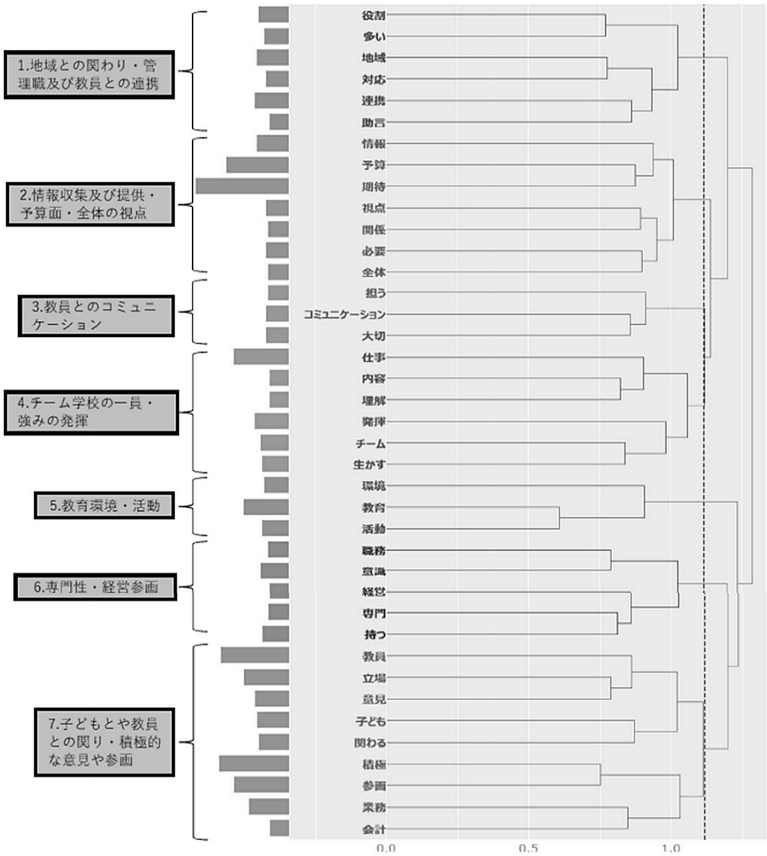

図２　多層的クラスター分析:校長

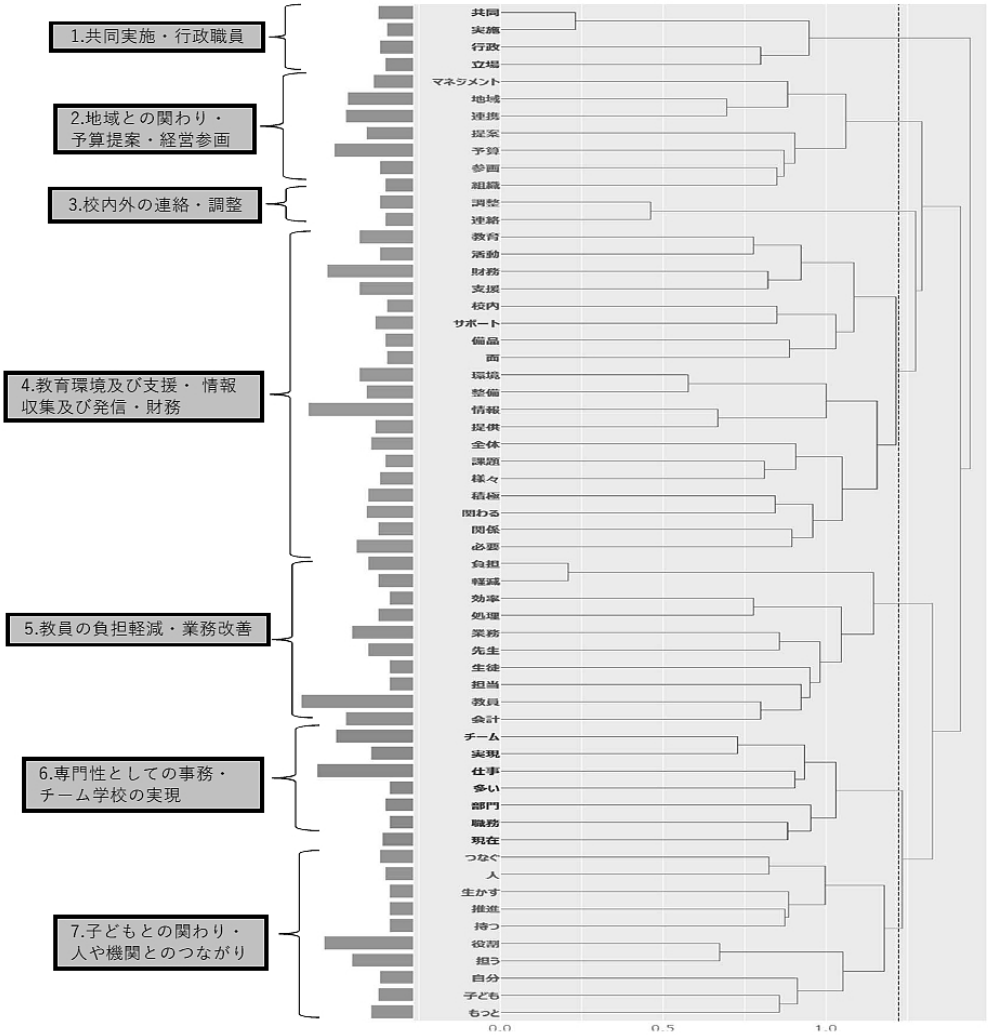

図３　多層的クラスター分析:事務職員

５．共起ネットワーク

（１）校長―事務職員

次に，出現する語と語が共に出現する（共起する）関係性を捉えるために，共起ネットワーク分析を行った。はじめに，校長と事務職員という２つの外部変数別及び２者間のつながりの観点から共起ネットワーク分析を行った結果が，図４である。円の大きさは，出現数（頻度）の多さであり，線の太さは関連性の強さである。校長については，「期待」「学校運営」「学校経営」「積極」「参画」「教職員」「専門性」といった語の頻度が高く，校長との関連性が強かった。また，事務職員については，「役割」「仕事」「予算」「財務」「情報」「教育」「仕事」「チーム」「連携」といった語の頻度が高く，事務職員との関連性が強かった。そして，両者の共起ネットワークは，「教員」という語を媒介としてつながっていた。

（2）校長

続いて，校長の共起ネットワーク分析の結果を示したものが図 5 である。サブグラフとは，出現する語の出現パターンが似たものであり，サブグラフが大きいほど，出現数（頻度）が多いことを意味する。また，サブグラフ間の実線は，両者の出現パターンが類似しており，線が太いほど関連性が強いことを意味する。分析の結果，サブグラフの 7 つのまとまりが析出され，原文を参照した上で，「1.予算・情報面での強い期待」（「予算」を中心として「情報」等と関連），「2.専門性の発揮」（「専門」を中心として「職務」等と関連），「3.教員との関わり・積極的意見や参画」（「教員」を中心として「意見」「参画」等と関連），「4.仕事の一端としての子どもとの関わり」（「仕事」を中心として「子ども」等と関連），「5.教育活動・環境」（「教育」を中心として「環境」等と関連），「6.地域連携・全体的視野」（「地域」を中心として「連携」等と関連），「7.業務改善」（「業務」と「会計」の関連）と命名した。また，サブグラフのまとまり間での関連性（破線）を見ると，ほぼ全てのサブグラフ間での関連性が見られた。

（3）事務職員

続いて，事務職員の共起ネットワーク分析の結果を示したものが図 6 である。7 つのサブグラフのまとまりが析出され，原文を参照した上で，「1.財務面での教員支援・業務改善」（「会計」「財務」を中心として「教員」「業務」「負担」等と関連），「2.チーム学校の実現・専門性・共同実施」（「チーム」を中心として「予算」「共同」等と関

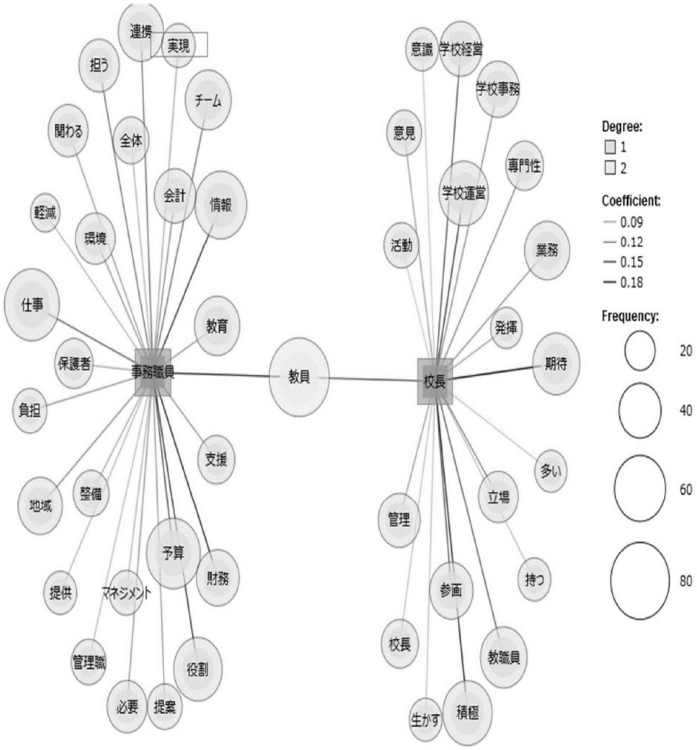

図 4　共起ネットワーク：校長―事務職員

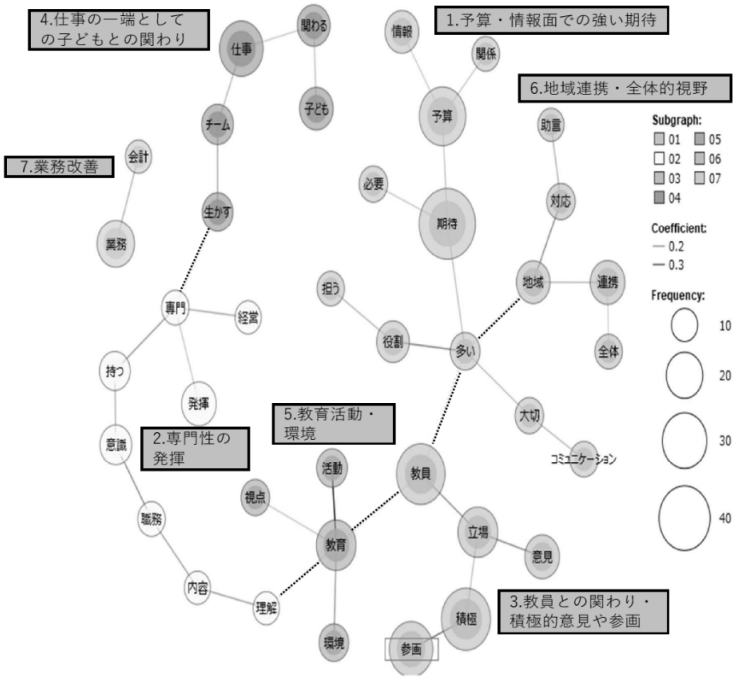

図 5　共起ネットワーク：校長

連)，「3.情報収集及び発信・環境整備」(「情報」を中心として「環境」「整備」等と関連)，「4.全体的視野・人をつなぐ役割」(「役割」を中心として「全体」「つなぐ」等と関連)，「5.組織参画」(「組織」と「参画」の関連)，「6.積極的関わり」(「積極」と「関わり」の関連)，「7.連絡調整」(「連絡」と「調整」の関連）と命名した。また，「1.財務面でのサポート・業務改善」「2.チーム学校の実現・専門性・共同実施」「3.情報収集及び発信・環境整備」「4.全体的視野・人をつなぐ役割」という 4 つのサブグラフのまとまり間での関連性が見られた。

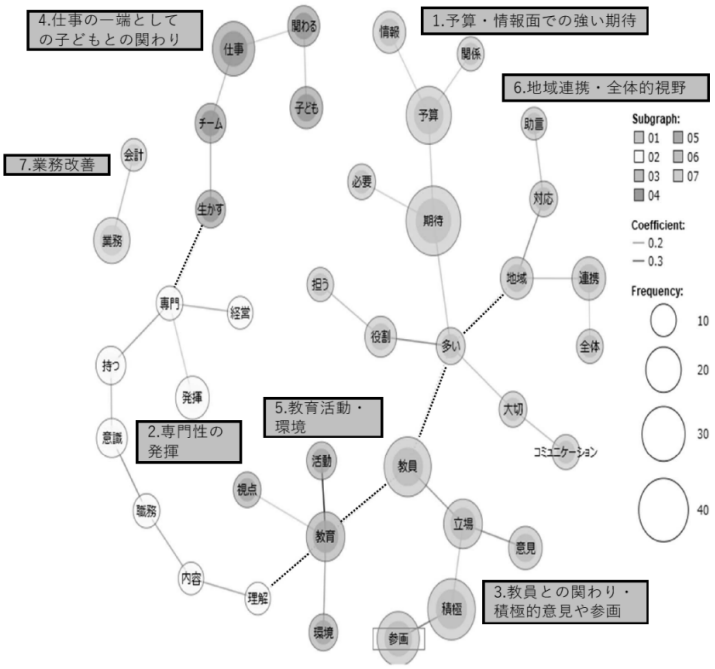

図 6　共起ネットワーク：事務職員

Ⅳ　考察

本稿の目的は，テキストマイニングを用いた自由記述データの分析によって，「チーム学校」の実現における事務職員の役割を統計的・構造的に明らかにすることであった。以下では，分析結果の整理と若干の考察を行った上で，本研究で得られた知見に関する総合的考察を行いたい。

第一に，出現語とその頻度である抽出語の分析の結果，校長では，「期待」「積極」「教員」「予算」「参画」が多く，事務職員は，「教員」「情報」「仕事」「役割」「財務」が多かった。この結果から，校長は，行政職員としての事務職員の強みである予算・財務面からの教員支援と学校経営・学校運営への積極的な参画を期待していること，事務職員も，自身の専門性を活かした情報・財務面からの教員支援が自身の仕事・役割であると捉えている実態が推察される。すなわち，校長，事務職員双方について，視点・力点の差異は見られるものの，両者とも，「チーム学校」のための役割を担ってほしい・担いたいという意識の高さとその多様な内容・役割観があることが看取される。藤原編（2017）では， 2017 年 4 月からの学校教育法改正によって，特に義務教育諸学校の事務職員の職務内容が「事務職員は，事務に従事する」から「事務職員は，事務をつかさどる」に変更されことを受け，事務職員の新たな役割イメージが提案されている。従来までの「事務職員としての実務系の職務に専念し，かつ学校経営への参画は特に期待されない」というものから，「実務系に加え企画系の職務に拡張し，かつ学校経営への参画が期待される」というものである。その観点から，先の結果を見ると，特に校長において，事務職員の学校経営参画への期待の高まっている実態があると言えよう。

第二に，校長と事務職員という 2 群間の比較におけるそれぞれの特徴語の分析の結果，校長は，「期待」「積極」「学校運営」「参画」に特徴が見られた。また，事務職員は，「教員」「財務」「情報」「役割」に特徴が見られた。この結果から，特に，校長は，事務職員に対して学校運営への積極的な参画を期待していること，そして，事務職員は，情報・財務面から教員を支援する役割を意識していることが推察された。第一の抽出語とほぼ同じ結果であるが，本結果は，特に，外部変数（校長，事務職員）における特徴を統計的に示したことに意味があると言える。また，校長では「教職員」，事務職員では「教員」という特徴語が得られたことは，「チーム学校」を語る・捉える際，校長は「教職員」として教員と事務職員等を総じて語る・捉える傾向があり，一方で，事務職員は自身以外の「教員」を想定して語る・捉える傾向があることが看取さ

れる。すなわち，総じて，校長は，事務職員を学校経営上の重要な役割を期待するパートナーとして捉えており，事務職員は，自身を学校経営上の重要な人材というよりも，教員ひいては子どものために何ができるかという視点から，徐々に自身の役割拡張を図っていると考えらえる。

第三に，校長と事務職員という 2 変数と抽出語との関係に関する対応分析の結果，校長は，「教職員」「積極」「コミュニケーション」「立場」「意見」「専門性」「学校運営」「参画」等が近くに位置づいていた。また，原文の概観の結果，総じて，事務職員としての専門性から教職員とコミュニケーションを図り，積極的な学校運営参画を期待する内容が多かった。一方，事務職員は，「教頭」「チーム」「役割」「サポート」「提案」「情報」「連絡」「共同」「整備」「様々」「担う」等が近くに位置づいていた。また，原文の概観の結果，総じて，校長の考える役割と類似した文が多い中でも，特に，共同実施で得た知識・情報を参照しつつ，教頭や教員の業務負担の軽減につながるサポート役割を担いたいといった内容の文が多かった。これらの結果から，特に，校長は，行政職員の立場からの学校経営・運営への積極的参画や教職員との連携といった全体的な立場からの関わり・参画の期待（感）を有していること，そして，事務職員は，専門性を活かした財務・事務面での教員の支援及び学校改善，校内外の情報収集・発信及び人とのつながり（資源獲得及び拡大）を担いたい（担うべき）という具体的な役割像を有していることが推察される。ここでは，特に，事務職員に期待される資源獲得と拡大に注目したい。現在，学校と地域との連携・協働を進めるために，各校に「地域連携担当教職員」を分掌配置することが求められている。また 2017 年 4 月からは，各学校において学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の導入が努力義務化されている。「地域連携担当教員」をはじめとして地域とのかかわりに関する事項は，教頭や教務主任が担当するケースが多い中で，事務職員が担当するケースも見られる。あわせて「子供の貧困」などチーム学校として対応すべき事柄が多くなる中で、「就学援助」等の事務をつかさどる事務職員には，今後，「情報マネージャー」としての役割に対する期待がますます高まることが予想される。

第四に，類似性の高い語同士をグループ化する多層的クラスター分析の結果，校長では，「1.地域との関わり・管理職及び教員との連携」「2.情報収集及び提供・予算面・全体の視点」等 7 クラスターが析出された。また，事務職員では，「1.共同実施・行政職員」「2.地域との関わり・予算提案・経営参画」等 7 クラスターが抽出された。そして，両者の共通点としては，情報（収集と活用）・財務面での専門性の発揮や教育環境の整備にあること，差異点としては，事務職員の方が，校内外（特に，地域住民や外部の関係者・機関）との連携・つながりや教員の負担軽減・業務改善に役割像を有していることが看取される。以上のことは，具体的な塊（クラスター）の抽出とその相対的比較によって，第三までの結果及び考察の妥当性を補強する結果と言えよう。

第五に，出現する語と語が共に出現する（共起する）関係性を捉えるため共起ネットワーク分析を行った。まず，校長と事務職員という 2 つの外部変数別及び 2 者間のつながりの観点からの共起ネットワーク分析の結果，校長については，「期待」「学校運営」「学校経営」「積極」「参画」「教職員」「専門性」といった語の頻度が高く，校長との関連性が強かった。また，事務職員については，「役割」「仕事」「予算」「財務」「情報」「教育」「仕事」「チーム」「連携」といった語の頻度が高く，事務職員との関連性が強かった。そして，両者の共起ネットワークは，「教員」という語を媒介としてつながっていた。次に，校長の共起ネットワーク分析の結果，「1.予算・情報面での強い期待」「2.専門性の発揮」等 7 つのサブグラフのまとまりが析出され，ほぼ全てのサブグラフ間での関連性が見られた。最後に，事務職員の共起ネットワーク分析の結果，「1.財務面での教員支援・業務改善」「2.チーム学校の実現・専門性・共同実施」等 7 つのサブグラフのまとまりが析出され，「1.財務面でのサポート・業務改善」「2.チーム学校の実現・専門性・共同実施」等 4 つのサブグラフのまとまり間での関連性が見られた。これからの結果から，両者ともに，「チーム学校」における事務職員の役割像を想定する際，「教員」との関わりに力点を置いているという共通性があること，校長，事務職員ともに 7 つのサブグラフのまとまりが抽出されたということは「チーム学校」における事務職員の役割は多様であること，一方で，サブグラフのまとまり間において関連性が見られることは多様な役割がありつつも「チーム学校」に向けた総体的・総合的な役割を模索している実態が推察される。また一方では，事務職員に期待される役割は，複数の視点・内容から語られ，ともすれば「総花的な」ものになる恐れもあるが，実際には，事務職員が勤務する学校の諸特性（子どもの実態，校長の学校経営観，教員の多忙状況，働き方・業務改善の進捗等）によって，求められる役割の個別性や多様性が生じていると言えよう。

以上の知見と考察を踏まえ，総合的な考察を行う。本稿では，校長と事務職員の意識の構造について，質的データ（自由記述）を用いた定量的分析によって明らかにしてきた。つまり，科学的分析手法によって，分析者の主観・選好の範囲・程度を縮減させ得たと言える。そこで，得られた知見を総合すると，総体的に，校長は，事務職員に対して，学校運営や学校経営に対する積極的参加・参画，行政職員としての予算・財務面を中心とする専門性の発揮とそのことを活かした教育・教員支援，情報収集・発信等，「全体的な」期待（感）を有していることが明らかになった。一方で，事務職員は，校長が有する「全体的な」役割意識を受容しつつ，特に，行政職員としての予算・財務面での専門性を活かした教育・教員支援とそれに付随する業務負担軽減・業務改善，校内外の情報収集・発信及び人・機関とのつながり（資源獲得及び拡大）という具体的な役割像を有していることが明らかになった。以上の知見から，校長，事務職員共に，川口他（2019）で示唆された「チーム学校」の実現における事務職員の役割としての「情報の管理と発信」（「情報マネージャー」としての役割像）や事務職員の対人関係としての「同僚の教職員」に対する期待や役割認識が確認されたと考えられる。また，川口他（2019）では，「チーム学校」の実現における「校長との肯定的関係」や「成長的・挑戦的雰囲気」といった組織風土・組織文化の重要性を指摘しているが，特に，校長と事務職員の関係を見た時，校長が事務職員を重要な人材と捉え，事務職員との信頼関係を形成することや事務職員の積極的な提案や活動を期待し促すことによって，事務職員も自身の職務上の役割や範囲を拡張させる可能性がある。さらには，学校組織全体においても，事務職員が「チーム学校」を構成する重要な人材であるとの認識が高まり，事務職員の有する専門性や教員とは異なる視座・価値観に出会い・交流しようとする雰囲気や関係性が醸成される可能性がある。このことによって，藤原（2011）の指摘する「学びの環境デザイナー」としての事務職員という役割モデルの拡張や子どもの学びの質を高め得る教員と事務職員との「教職協働」の実現が期待されるであろう。

最後に，今後の研究課題を 4 点示す。第一は，抽出語の再検討による再分析である。第二は，回答者の個人特性や所属校の組織特性のカテゴリー及びタイプ別による比較分析である。第三は，定量分析（川口他 2019）及び本稿での分析結果を踏まえたインタビュー調査の実施とその分析である。第四は，3 つのデータ（定量，定性 1：自由記述，定性 2：インタビュー）によるトライアンギュレーション（三角測量）分析である。

謝辞・付記

本研究の実施にあたり，ご多忙の中調査にご協力くださった皆様にお礼申し上げます。本研究は，平成 30 年度公益財団法人日本教育公務員弘済会本部奨励金（研究代表者：川口有美子）の助成を受け，実施されたものであり，日本教育事務学会第 7 回大会自由研究発表資料（国士舘大学：2019 年 12 月 14 日）を加筆修正したものです。

引用文献

・加藤崇英（2016）「『チーム学校』をめぐる政策動向と学校事務職員の位置づけ」『日本教育事務学会年報』第 3 号，pp.44-47。
・川口有美子・諏訪英広・佐久間邦友（2019）「チーム学校の実現と学校事務職員の職務態様との関連―校長及び学校事務職員対象の質問紙調査から―」『日本教育事務学会年報』第 6 号，pp.50-62。
・国立教育政策研究所（2015）『小中学校の学校事務職員の職務と専門的力量に関する調査報告書』。
・国立教育政策研究所（2017）『学校組織全体の総合力を高める教職員配置とマネジメントに関する調査研究報告書』。
・末吉美喜（2019）『テキストマイニング入門―Excel と KHCoder でわかるデータ分析―』オウム社。
・樋口耕一作成サイト　KH コーダー3.Beta.04a https://khcoder.net/（2021.11.29 最終アクセス）。
・樋口耕一（2020）『社会調査のための計量テキスト分析―内容分析の継承と発展を目指して―』ナカニシヤ出版。
・福島正行（2016）「『チーム学校』を学校事務としてどう支えるか」『日本教育事務学会年報』第 3 号，pp.16-22。
・藤原文雄（2011）『「学びの環境デザイナー」としての学校事務職員―教職協働で学びの質を高める―』学事出版。
・藤原文雄編（2017）『事務職員の職務が「従事する」から「つかさどる」へ』学事出版。